

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

記入日 2011年 1月 25日

1. 概要

実践団体名	13. 社会福祉法人 温真会 中士幌児童ステーション		
連絡先	松浪浩之 01564-7-4446		
プランタイトル	安心安全地域防災イキ・イキプラン		
プランの対象者	1. 幼児・保育園児・幼稚園児 2. 小学生（低学年） 3. 小学生（高学年） 4. 中学生 5. 高校生 6. 大学生 8. 教職員・保育士等 9. 保護者・PTA 10. 地域住民	対象とする 災害種別	1 地震

【プランの目的・ここがポイント！】

地域の各事業部門（児童施設・学校）で、バラバラに実施されている防災プログラムを持ち寄り、すり合わせ、地域の実情を考慮し、地域住民や諸団体（公民館・婦人会・老人クラブ etc）と連携をとり、より効果的な地域防災プログラムの開発を目指す。

【プランの概要】

児童総合施設（子育て支援センター・保育園・児童センター）における各年齢に即した防災プログラムの実践の中から、施設の枠内では、防災教育は完結しないという認識の基、地域防災と言う視点に立って、地域の全住民を対象とした防災教育プログラムの開発を目指し、地域横断的な「地域防災委員会」の設立を目指した。

【期待される効果・ここがおすすめ！】

地域防災委員会を立ち上げた根底には、北海道東部を約 20 年周期で襲うマグニチュード 8 クラスの大地震にあります。先の地震から 8 年が経過しました。その間の地域の変貌は、少子高齢化人口減社会そのものです。現在の実情から地域防災を見つめ直し、地域としての効果的な自衛防災プランを立て、実行する。

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

2. プランの年間活動記録

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
2010年 4月	中土幌地域防災委員会(以下、防災委員会)の工程表の立案	準備会メンバーの呼びかけ	準備委員会設置の素案作りとメンバーへの打診
2010年 5月	防災委員会準備会の設立に向けて	メンバーの選出と了承	準備会の基となるメンバーで更なる人選
2010年 6月	防災委員会準備会の発足(以下、準備会)	第1回準備会・開始準備	第1回準備会の開催と組織づくり事務局として、委員会設立まで中土幌児童ステーションが任にあたる
2010年 7月	第2回準備会の開催	第1回を踏まえて組織構成を見直す	メンバーの増員及び協議
2010年 8月	準備会に於ける問題点の整理	準備会での意見を踏まえ	委員会メンバーとの連携調整
2010年 9月	準備会最終会議	委員への案内状発送	設立総会準備
2010年 10月	中土幌地域防災委員会の設立 防災教育チャレンジプラン中間報告会準備	委員会構成メンバーへの案内	防災委員会の設立と今後の方針の検討、中間報告会への出席
2010年 11月	防災委員会会議	防災委員の工程表づくり	会議の開催
2010年 12月	地域住民を交えての防災委員会開催	地域住民へのシンポジウムへの案内	シンポジウムの開催
2011年 1月	防災委員会の開催	シンポジウムの結果の集約	地域住民との対話を踏まえ、防災委員会の方向性を打ち出す 最終報告会のワークショップの実施
2011年 2月	防災委員会のプラン策定	地域防災計画の立案に向けて	地域防災計画の素案づくり
2011年 3月	防災委員会総会及び講演会開催予定	総会資料作成	総会及び講演会開催

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム①】

タイトル	中土幌地域防災委員会の準備会開催に向けて
実施月日（曜日）	4月27日（火）
実施場所	中土幌児童ステーション 会議室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：松浪浩之 所属・役職等：中土幌児童ステーション 理事長
所要時間または「コマ数×単位時間」	午後1：30～午後4：30
プログラムのカテゴリ、形式	2 講習会・学習会・ワークショップ
活動目的	3 災害に強い地域をつくる
達成目標	防災委員会準備のメンバー選定と内容の検討、今後の工程表づくり
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	準備会に向けての骨子の起案と範囲及び人選と今後の準備会開催に向けての工程表づくり
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	議案書・マーカー
参加人数	8名
経費の総額・内訳概要	総額 3,140円 ・会議費・印刷製本費・通信費
成果と課題	【成果】 防災委員会の設立の必要性を理解してもらえた 【課題】 準備会のメンバーの範囲
成果物	議事録

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

【実践プログラム②】

タイトル	中土幌防災委員会準備会開催
実施月日（曜日）	7月2日（金）
実施場所	中土幌児童ステーション 会議室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：松浪浩之 所属・役職等：中土幌児童ステーション 理事長
所要時間または「コマ数×単位時間」	午後7：00～午後9：00
プログラムのカテゴリ、形式	2 講習会・学習会・ワークショップ
活動目的	3 災害に強い地域をつくる
達成目標	防災委員会準備会の発足
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災委員会設立に向けて準備委員会の発足を目的に準備会メンバーに案内し、会を開催する。 ・ 準備会の協議を経て防災委員会設立に向けてメンバーを拡大し目指すことに決定
準備、使用したもの ・ 人材 ・ 道具、材料等	議案書
参加人数	12名
経費の総額・内訳概要	総額 15,740円 ・ 会議費・印刷製本費・通信費・消耗品費
成果と課題	<p>【成果】 防災委員会設立に向けての準備会の発足</p> <p>【課題】 防災に向けての地域住民の理解をどのように得るか、その為の方法はどうするか</p>
成果物	議事録

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

【実践プログラム③】

タイトル	中土幌地域防災委員会 準備会最終会議
実施月日（曜日）	9月1日（水）
実施場所	中土幌児童ステーション 会議室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：松浪浩之 所属・役職等：中土幌児童ステーション 理事長
所要時間または「コマ数×単位時間」	午後7：00～午後9：00
プログラムのカテゴリ、形式	2 講習会・学習会・ワークショップ
活動目的	3 災害に強い地域をつくる
達成目標	中土幌地域防災委員会の最終設立準備
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災委員会の組織の骨子と事業範囲を決定 ・ メンバーの最終確認と依頼文と委員委嘱の依頼者の決定 ・ 地域住民への周知法の決定（広報を使う）
準備、使用したもの ・ 人材 ・ 道具、材料等	議案書
参加人数	12名
経費の総額・内訳概要	総額 4,935円 ・会議費・印刷製本費・通信費
成果と課題	<p>【成果】 地域防災委員会の設立の決定</p> <p>【課題】 委員依頼のお願いと地域住民への広報の仕方をどうするか</p>
成果物	議事録

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

【実践プログラム④】

タイトル	中土幌地域防災委員会設立総会
実施月日（曜日）	10月2日（土）
実施場所	中土幌公民館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：滝 千冬 所属・役職等：中土幌公民館推進委員長
所要時間または「コマ数×単位時間」	午後7:00～午後9:00
プログラムのカテゴリ、形式	2 講習会・学習会・ワークショップ
活動目的	3 災害に強い地域をつくる
達成目標	地域防災委員会の設立
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 準備会を経て防災委員会を設立 ・ 準備会で検討した今後の事業計画を承認
準備、使用したもの ・ 人材 ・ 道具、材料等	議案書
参加人数	18名
経費の総額・内訳概要	総額 8,140円 ・会議費・印刷製本費・通信費
成果と課題	<p>【成果】 地域防災委員会の設立及び役員の選出</p> <p>【課題】 地域住民への広報活動の進め方</p>
成果物	議事録

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

【実践プログラム⑤】

タイトル	中土幌地域防災シンポジュームの開催
実施月日（曜日）	12月11日（土）
実施場所	中土幌児童ステーション 会議室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：松浪浩之 所属・役職等：中土幌地域防災委員会・推進委員長
所要時間または「コマ数×単位時間」	午後7:00～午後9:00
プログラムのカテゴリ、形式	3 講演会・シンポジウム
活動目的	3 災害に強い地域をつくる
達成目標	地域住民の理解を得ることと地域防災の問題点の意見交換
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域住民を交えて防災委員会を開催 ・ 地域住民との意見交換会 ・ 防災コンテンツソフトの製作の了承 ・ 救命講習会実施の決定 ・ 携帯を活用した地域防災システムの開発の承認
準備、使用したもの ・ 人材 ・ 道具、材料等	議案書
参加人数	68名
経費の総額・内訳概要	総額 39,880円 ・ 会議費・印刷製本費・通信費
成果と課題	<p>【成果】 シンポジュームの開催・住民とじかに話し合えた事</p> <p>【課題】 防災ソフトの開発の開始</p>
成果物	議案書・案内チラシ

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

4. 苦勞した点・工夫した点

<p>プランの立案 と調整で 苦勞した点 工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第一に今までない組織を創ることの難しさを痛感した。 ・ 総論で賛成でも、具体性を帯びるにつれ、ややもすると腰が引けそうになりましたが、長年地域に根ざした児童活動の実施が、プラン実現の大きな原動力になりました。 ・ 多くの地域住民が中士幌児童ステーションから巣立っていった人達で、その人脈が決め手になりました。
<p>準備活動で 苦勞した点 工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域住民を組織化することが一番の困難な点でした。 ・ 防災の必要性は誰しも認識しているのですが、いつ来るか分からない災害には、分っていても本気になれないのが人の意識です。 ・ 約 20 年周期で来る大地震のデータと地域住民の人口構成のデータの情報提供が地域住民を動かしました。
<p>実践に 当たって 苦勞した点 工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域防災委員会を組織化することが一番大変な事でしたが、長年の児童施設を通した地域活動が実を結びました。やはり約 20 年周期で来る大地震の記憶と地震に対する地域としての防災の必要性が理解してもらえました。 ・ 組織ができた今、ここを足がかりに現状に即した地域防災プログラムを組み立てていく事の方が、より高い山だと認識しています。百人寄れば文殊の知恵の精神で地域との対話を重ねて、よりよき「安心安全地域防災イキ・イキプラン」の活動を推進していきます。

防 災 教 育 チ ャ レ ン ジ フ ラ ン 最 終 報 告 書

5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	中士幌保育園 中士幌小学校 中士幌児童センター 中士幌公民館 士幌町教育委員会	準備会・委員会の参加
保護者・ PTAの組織	中士幌保育園父母の会 中士幌小学校PTA 中士幌児童センター保護者会	〃
地域組織	中士幌公民館推進委員会 中士幌連合町内会 中士幌老人クラブ	〃
国・地方公共団体・ 公共施設	中士幌公民館 士幌町消防中士幌支所	〃
企業・ 産業関連の組合等	士幌町防犯協会中士幌支部 士幌町商工会中士幌支部 士幌町建設協会	〃
ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等	ぱん・ぱん・ぱんぷきん ひまわり婦人会 士幌町社会福祉協議会 士幌町赤十字会 中士幌勝手連	〃
職業、職能団体・ 学術組織、学会等	北十勝士幌消防署	救命講習の指導

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

<p>成果として 得たこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の防災の基盤となる中土幌地域防災委員会の設立が成ったこと。その過程で地域の様々な人達と意見交換したことが地域防災を考える上に於いての最大の財産になりました。
<p>全体の反省・ 感想・課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・当初計画したプランの最大の山場であった地域防災委員会を地域住民の協力で設立できたことが最大の喜びです。 ・住民参加による「安心安全地域防災イキ・イキプラン」の基礎ができました。
<p>今後の 継続予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・組織を基点に会ですり合わせ開発した防災プログラムを地域住民に提供し、防災に強い町づくりを目指す。その為の底辺の活動として、子ども時代から一貫した防災教育を実施する。 ・小学校等への出前による防災プランを準備中です。これからが本格的な委員会の活動であり、今後ともチャレンジを重ね事業を継続していきます。

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

7. 自由記述欄 ①

児童施設の中での防災教育から、地域全体の防災という視点を持ちえたことがバネとなり、それを実現するためにはどうしたらいいか解決法を模索する過程で、地域防災プロジェクトを立ち上げる構想がうまれました。

防災教育チャレンジプランは、この構想を実現する上で、大きな原動力となりました。構想を実現する上に於いて、北海道東部を約 20 年周期で襲ってくるマグネチュード 8 クラスの大地震の記憶と地域社会の少子高齢人口減という変動が、住民意識を地域防災委員会設立へと向かわせました。防災に特化した構想は、住民生活の安心安全という部分でフィットしたことと、地域に根ざした児童福祉事業を 58 年に渡り継続してきた人脈がネットになり、プロジェクトを成功へと導いていったと思います。

地域に根ざした法人の活動と、約 20 年周期で襲ってくる大地震と防災教育チャレンジに認定されたことが当法人の呼びかけに「安心安全地域防災イキ・イキプラン」の最大の目標であった地域防災委員会の設立を成功させた一番の要因です。

構想を夢に終わらせることなく、現実化に導いてくれた防災教育チャレンジプランに深く感謝をしています。このような機会を与えてくださったことにお礼を申し上げます。



災害時ポンプ水汲み実習



災害時炊き出しかまど実習